

臨床薬理学

責任者・コーディネーター	情報伝達医学分野 平 英一 教授		
担当講座・学科(分野)	情報伝達医学分野、衛生学公衆衛生学講座、薬学部臨床薬剤学講座、薬学部薬物代謝動態学講座		
担当教員	平 英一 教授、古濱 和久 非常勤講師、樋口 宗史 非常勤講師、近藤 ゆき子 助教、小栗 重統 非常勤講師、工藤 賢三 教授、小澤 正吾 教授		
対象学年	4	区分・時間数	講義 15.0 時間
期間	後期		

・学習方針（講義概要等）

薬物治療は現代医療の中で中心的な役割を占めている。治療に有効な薬物を開発し、患者により安全で有効な治療薬を選択するための学問が臨床薬理学である。臨床薬理学は、臨床薬物動態の検討、薬物の開発と臨床治験、そして個人に適した有効治療の確立などがあり、臨床薬物治療学に科学的さらには倫理的側面からもアプローチする学問である。また、臨床薬理学に加え、現在臨床現場で用いられている漢方薬は、長年の経験と知識から漢方医学で確立された治療薬である。

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

・教育成果（アウトカム）

医師として薬物治療、薬物開発、臨床治験に参加する際の基本的知識を習得する。また、薬物動態の個人差を理解し、各個人向け治療を実践できる知識を習得する。さらに、漢方薬について分類、処方について理解し、治療に必要な知識を習得する。

・到達目標（SBO）

- 1 薬物治療の際の科学的根拠と、倫理、法律を説明できる。
- 2 薬物の処方について説明できる。
- 3 薬物の毒性について説明できる。
- 4 薬物の開発について説明できる。
- 5 薬物に対する反応の個人差について説明できる。
- 6 臨床的な薬物動態について説明できる。
- 7 薬物間の相互作用について説明できる。
- 8 漢方薬について説明できる。

・講義日程

（矢）西 104 1-D 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/29	火	1	情報伝達医学分野	樋口 宗史 非常勤講師	肥満
9/29	火	2	薬学部臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	開発、臨床試験
10/6	火	1	情報伝達医学分野	古濱 和久 非常勤講師	医薬品毒性学
10/6	火	2	薬学部臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬物動態、代謝
10/13	火	1	情報伝達医学分野	近藤 ゆき子 助教	薬物相互作用
10/13	火	2	薬学部薬物代謝 動態学講座	小澤 正吾 教授	薬理遺伝学・遺伝子多型と薬物代謝
12/1	火	1	薬学部薬物代謝 動態学講座	小澤 正吾 教授	遺伝薬理学・個人差
12/1	火	2	情報伝達医学分野	平 英一 教授	処方
12/4	金	1	衛生学公衆衛生学講座	小栗 重統 非常勤講師	現代医学における漢方の役割
12/4	金	2	衛生学公衆衛生学講座	小栗 重統 非常勤講師	漢方治療の症例紹介

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	NEW 薬理学 改訂 6 版	田中千賀子、加藤隆一 編	南江堂	2011
参	シンプル薬理学 改訂 5 版	野村隆英、石川直久 編	南江堂	2014
参	Goodman & Gilman' s the pharmacological basis of therapeutics 12th ed.	Laurence L. Brunton	McGraw-Hill	2011
参	カッツング薬理学 原著 10 版	Bertram G.Katzung 著、 荒木勉ほか訳	丸善	2009
推	医科薬理学 改訂 4 版	遠藤政夫ほか編	南山堂	2005
参	カラー図解 これならわかる薬理学 第 2 版	佐藤俊明訳	メディカルサイエンスインターナショナル	2012

・成績評価方法

統合試験による。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			